



[C9TUoF-2](#)

大野千賀子さん(81歳)

名勝弓ヶ浜を擁する南伊豆町湊に一人住まいの大野千賀子さん(81歳)、電話のお声の若さに驚かされました。お会いしてその行動力の逞しさに再び驚きました。同地で生まれ、保育士として40年間勤務、現在は年金を糧に「見返りを求めない」ボランティア活動で生きがいと幸せを感じておられます。



[IMG 3657](#)



[IMG 3660](#)

紙芝居を演じる大野さん 物語に引き込まれる南中小二年生
先ずは17~18人で分担する「読み聞かせ」です。月に1~2回交代で町内の小学校を回り、授業前15分ほど1・2年生を対象に行います。「読書に親しむことはとても大切。赤ちゃんでも首が座ったらもう早過ぎない。」とおっしゃいます。本選びは長年読み継がれてきているもの、動物や乗り物など身近なものから始めるのが良いとのアドバイスです。「最近、おっばいをあげながらスマホをしているママを見ることがある。赤ちゃんの目を見て出来るだけ話しかけてあげて欲しい。」と心配されています。



[IMG 3593](#)

絵手紙の指導をする大野さん(水色の上着)



[IMG 3603](#)

もう一つのボランティア活動は「絵手紙教室」です。社会福祉協議会で月二回二時間ほど講師をされています。またご自身の絵もNHK静岡で過去5回紹介されています。墨を擦る音で始まる教室は筆を垂直に持ち、今日のお題、例えばリンゴを見つめる生徒さん達の集中力で緊張の糸がピンと張ります。



[C9TUj4-2](#)

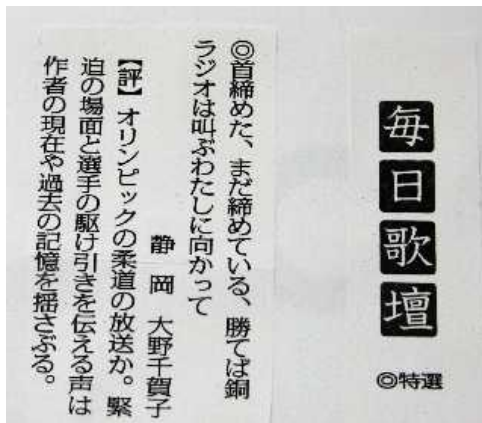
大野さんの絵手紙「げんこつ」



[IMG 3590](#)

教え子が始めた[絵手紙の会]の作品

絵が上手でなくとも一言添えることでぐっと味わいが深まる絵手紙。無心になれる時間や会心の一言を絞り出した爽快感、勿論お仲間とおしゃべりなど、それぞれに教室を楽しんでおられます。去年の生徒さん達は教室が終了した後、自分達で「絵手紙の会」を発足させ、定期的に図書館に集まり切磋琢磨しているそうです。



[IMG 3666](#)

大野さんは短歌の腕前も一流、今年9月5日には毎日新聞歌壇で特選に選ばれました。その作品は「首絞めた。まだ締めている。勝てば銅、ラジオは叫ぶわたしに向かって」リオ・オリンピックの中継を聞きながら作られたものです。



[大野千賀子さん](#)

[CABN5d-2](#)

南伊豆町図書館に隣接する石垣りん文学記念室

行政の資金に頼らず寄付だけで建設に漕ぎ着けた地元ゆかりの詩人「石垣りん文学記念室」開館にも膨大な資料整理などで貢献されました。その他、動物福祉協会の活動としての猫の世話、トリム体操、海外の子供達への支援、少し前の事ながら随筆自費出版、町の行革委員等々大野さんの生きがいは枚挙にいとまがありません。

シニアの方々へのアドバイスとしては「行政に甘えず、少しでも自立した生活を！」、そして御自身の目標としては、「90歳まで自立して尊厳のある生活を送りたい。」とのことでした。

生きがい特派員 賀茂地区担当 福居通彦

父は南伊豆町、母は松崎町生まれで、自身も南伊豆町に眠る石垣りんの詩は教科書などでも数多く取り上げられています。折角ですので極一部、抜粋をご紹介します。



[IMG 3638](#)

[ダウンロード](#)
南伊豆ゆかりの詩人石垣りん 南伊豆町図書館

「着物」から抜粋

人間が犬に着物をきせたとき
初めて着物が見えてくる
着せきれない部分が見えてくる。
からだに合わせてこしらえた
合わせきれない獣のつじつま。
そのオカシサの首に鎖をつけて
気どりながら
引かれてゆくのは人間です。